

餌であるからむしる保護を要する。

タニシ 一時は絶えていたが、最近によく見かける。稲の幼苗を食害するので駆除を要する。

キセルガイ 陸産の巻き貝の一種。木に登るものや落ち葉・石の間に棲む。戦前まではよく見かけ大木の根元に群がっていたが、現在では全く見ない。

六 カメ類

イシガメ 池沼・川の浅い所や山地の谷川沿いに居る場合もある。それにしても当地方ではそうざらにいるわけではない。

スッポン 水中の泥に棲む。自然界のものは右と同じくめったに見ない。崎山の古門亀修庵は専門に飼育している。

七 その他

カタツムリ 普通デンデン虫とも呼ばれ、よく見かける。「つのお出せ、やり出せ」の懐かしい童謡の愛嬌もの。

ナメクジ 殻が退化したカタツムリの一種。畑や朽ち木や家屋の内外、特に湿った所を好み、夜行性であるので駆除にてこずる。

ミミズ 雌雄同体の環形動物。落ち葉やゴミ溜めに棲む。掘り出して魚釣りの餌にする。

ヒル 水田や小溝に多くいる。伸縮性に富み前後に吸盤があり人間に吸いついて血を吸う。

ウジ ハエの幼虫。腐った物や不潔な場所にハエが産みつけた卵によって発生する。

ムカデ 藪中や落ち葉の下に棲む。節足動物で猛毒があり、咬まれるとひどい痛みを覚える。農作物の害虫を食べるので益虫。

ゲジゲジ ムカデに似た節足動物、猛毒は無いが頭を這えば毛が抜けるという言い伝えがある。ムカデより数は少ない。

ダニ 動物の毛の中、畳のほこりの中、山中の木から落ちて人間にくぐダニなど種々あるが、最近では薬剤散布や掃除機の普及でほとんどなくなった。

参考文献

『英彦山』(田川郷土研究会)、『福岡県植物誌』(福岡県高等学校生物研究会)、『原色野草図鑑』(保育社)、『学研生物図鑑』(伊良原ダム環境調査報告書)、『福岡県の植物』

第二節 植物

犀川町の植物相

英彦山を頂点として、放射状の山系が北方に延びており、築上郡境の山並みや蔵持山・帝釈山から大坂山に連なる山並みが犀川町を包み、その谷間をうるおして今川・碓川が周防灘へと注いでいる。

犀川町の総面積は九七・九七平方キロメートル、その七割は森林と原野であり、そこに生育している植物は三〇〇種以上もあるだろう、それを逐一掲記することは至難の業であるから、常識的な一般調査の範囲になるこ